

令和3年度 学校運営協議会研修会 質 疑 応 答

日時：令和3年11月18日（木）14時から

場所：笠岡市民会館 第2研修室

講師：文科省CSマイスター

府中市教育委員会学校教育課

主幹 宮田幸治

【概要】

○質問者： 内容不明

回答： なんで、地域の力を学校は必要としているのかというところを・・・。

「これだけしているのに、学校は何をしているのか。」という声は、実際、出ます。そこは、地域の方の思いを学校として、どれだけ受け止めていくか・・・。地域の方は、その地域の子供たちが良くなってもらいたいと思いつながっていきいます。「こういう風に関わったことで、こんな風に子供たちが変わってきたよ。」ということをして、どう返していけるか。子供たちがどう学んで、成長しているかということをしつかりと地域へ出していく、見せていくということが、学校の重要なところだと思います。あと、取組について、はじめは、関わって良かったと思えるようなことをしつかり考えてやっていくのが、一番重要だと思います。地域の方もボランティアで出て、「あっ、行って良かったな。」と・・・。そして、そこで関わった子が、町中で会ったときに、「おじいちゃん、この前はありがとう。」と声をかけてくれたとき・・・。そんな風に、「やって、良かった。」ということが一つ一つつながっていくことで、「一緒に行ってみよう。」という人が増えてきたりする。やはり、そこが一番重要であるかなと思います。一度のうまくいくということは、中々ないですね。

質問者： ここにいらっしゃる方は、皆いろいろな役割を持ってやられている。時間がなくてもいろいろやられている。そういう子供たちのために、そういうことが大事だと思います。

○質問者： 今、小学校1年から中学校3年まで、9年間で話をされている。我々金浦中学校区は、3校が一緒になる。今、先生が言われていたこと、地域が一つにまとまると、今までの学校がなくなる。そうしたときに、そういう風なことに関わって来られたんでしょうか。そういうことになると、地域、地域が沈んでしまう可能性がある。それをどういう風な形

で克服されたんですか。例えば、公民館で運動会をやっとする。小学校、中学校、それと地域の人が集まって一体でやっとするんが、それが3校が集まったときには、地域がバラバラになってくるんですね。そのまとめ方ということをお教えいただければと思います。これから一つになる、スタートするので、その道順をお教えいただければ、我々もそれに対していろいろ考えられるので、お教えいただけたらと思います。

回答： 状況が違うことがあります。うちの場合は、コミュニティスクールができるちょっと前に統合が行われたということです。1回、統合というのは、いろいろなことがあっても、治まっていた訳ですね。だけど、今度コミュニティスクールをしようと言ったときに、今まで一段落していたものを、もう1回蓋を開けるという形になったんです。そして、「また、こういった寂しい思いをするんだ。」ということが、もう1回出てきたんです。その時には、何度もいろんな思いをしながらでも何とか気持ちを落ち着かせてたんですね。一回学校を無くして、さらに何をしろと言うんだということです。まさに、そこだったんです。だから、今そういう状況になったから、その仕組みを使ってもう一回コミュニティを、賑わいを取り戻しませんかという話になっていくんです。そうしたら、どうしたらいいのか……。私、そんな言えるような立場ではありませんが、コミュニティスクールというのは、今、皆さんが大切にされているものや、次の世代に伝えたいこと、残したいことを、どうやって残していこうかという話をする場になるんです。これから、それぞれが一つの学校になっていくんだけど、これをどうにか残していきたいんだけど、どういう方法があるかというのを話し合いに出していくという風なところが、まずスタートじゃないかと思います。この行事というものはすごく昔から伝わっていて、すごく大事にしているので、これを何とか一つになっても伝えていく方法には、どうしたらいいのかというところで、しっかり話しをしていくということが、私だったら言えるところだと思います。十分な答えとは言えません。そういった思われているようなものを残していく可能性が、そこにはあると思います。

質問者： 各地域地域で残していきながら、一つの統合という風な感じて考えれば良いということですか。

回答： それが良いですよと言えないところが、察していただければと思います。一つになっても、その行事には皆んなで帰って行けるような仕組みをつくろうねと、そういう風に意識を揃えたら良いかもしれない、と思います。

○質問者： 私たちは、地域の中で子供と向き合った生活をしているんですけれ

ども、その子供が育っている家庭、保護者の思いというのはどうなんかなという思いが・・・子供は割と環境になれたりするんですけど、親の思いとしては、地域の中で子供を育てる親の思いというのは、今、特に様々な家庭がある中で、いろいろな思いがあると思うんですけど、そこはどのように対応されてきたのかなということが、気になりました。

回答： コミュニティスクールに関わってくださる皆さんというのは、やっぱり、おじいちゃん、おばあちゃん世代が実は多いんですね。それで、笑えるようで笑えない話として、スーパーとかで親と子供が一緒にいて、子供が「どどこのおばちゃん、この前はありがとうね。」と話をします。「うん、この前楽しかったね。」と話をした時に、保護者が「今の人、誰？」と言う。これ、笑えるようで笑えない話ですよ。そんななこともあります。それだけ地域の方が関わっている。「子育てというのは本来、保護者がするものじゃないか。」という声も、やはり出てきます。どちらとも正しいと思います。その中で、こんな意見も出された方もいました。「保護者世代というのは、生活していかないといけんし、働いていかんといけん。その時に、子供たちのことというのは、地域のおじいちゃんやおばあちゃんが見てくれているからな。それというのは、役割としてつながっていくものになるんじゃないかな。」という話として。「自分たちが働いて、中々地域行事に出れん時も、おじいちゃん、おばあちゃんが見てくれる。じゃ、自分たちがその代になったら、同じような役割をするようになるんじゃないかな。」という話をしてくださった方もいます。それで、家庭状況、まさに違います。中々コミュニティの中でも、町内会に入らないとか、いろんなことを聞くんです。だけど、子供はその地域で育っているんですね。中々理解が得られない保護者がいたとしても、もしかしたら、その子供が地域の誰かとつながっていることで、その子にとって大切なものを学んでいけるじゃないかということがあるんです。困ったときに、親に言えないことでも「ちょっと、おばちゃん、これ聞いてね。」と、しんどいことがもし話せたらですね・・・。それが、そういう地域のつながりをどう作っていくかというのは、そういう子供たちの実態、家庭状況で、中々つながりを持たない子供たちにとっても、重要なものになっていくんじゃないかなと思うんです。中々深刻なことで・・・十分に世話をしてもらっていない子供でも、地域のほうでしっかり見てあげているよとか、セーフティネットの役割も出てくるのかなと思います。

○質問者： 3ページの「設置の歩み」ということで、平成24年度からありますが、先生が、教師でおられるときに、市内というか、お子さん方に、

地域の方々が、大きく変わったなあというようなこと、目に見えて、いろんな形で感じるが多々ありましたか。

回答：そこはですね、私は、平成23年に教育委員会に入りまして、最初の1年だけは担当じゃなかったんですが、その担当になってずーっと話をしています。コミュニティスクールが進んでいくというのは、最初は行政だけが最初はしゃべっていく訳です。説明して、こんなことをしていくと・・・それが、今度は、地域の方や子供がそれぞれの言葉でしゃべっていくようになるんです。「うちの学校は、コミュニティスクールと言って、地域の方とこんなことができて、すごく大切にされているんですよ。」ということ、中学校3年生が、高校入試の面接でしゃべるんですよ。「うちの学校のコミュニティスクールは、こんな風な活動ができる。そんな素晴らしい地域の学校なんですよ。」と、面接でしゃべるんです。それで、それを聞いた地域の方は、やっぱり嬉しいですよ。自分たちが関わったことによって、こんな子供が育っていくんじゃないかということも・・・。ただ、行政が言うんじゃないくて、それぞれの子供なり、家庭なり、地域の方が、それぞれの言葉で語っていけること、それが大きくなっていくというのが、少しずつ進んでいることの確認になると思います。でも、まだまだ、「コミュニティスクールって何？」というのは、毎年の課題として、どうやって分かってもらおうかなというのは、10年近くなくなっても、毎年の課題として捉えています。

○質問者：

回答：コミュニティスクールというのは、言い方は悪いですけど、濃厚な接触をよしとするような活動なんです。近い、暖かさを感じられるとか・・・。コロナ禍の中で距離を置いたりすることも、地域でやろうと思ったことが中断になったりすることが、やっぱりたくさんあったりする。その中でも歩みを止めないよということ、地域で進めいいてだしている。本当に感謝しかありません。

○質問者：私のほうは、島に近い中学校・小学校なんですが・・・。今、中学校、小学校合わせて50人ぐらい。その内、中学生が半分です。中学生は、地域外の方がたくさん来ていまして、半分ぐらい。はっきり言いますと、地域との絡みで、特に、島にはほとんど子供さんがいない。一人か二人とか。ですから、中学校も年々に吸収して、私どもの中学校に合併するようになっているんですけども、その時に地域との絡み・・・。問題は地域・学校・家庭なんですけれども、はっきり言ってそういう少ないところの地域との絡みをどう考えるのかなと思うんですけど・・・。

回答：大変難しいですね。本当に・・・。実は、府中市ではそういう所はない

んです・・・。

質問者： 人数から言うと難しい、本当に、千なんぼの規模の状態でしょう。

回答： 実は、2週間前に京都の方へ、お話をすることがあって行ってきました。京田辺市という所へ行きました。その学校は、地元の子は3割しかいない。7割は他の地域から来る。そこで、その学校は、実は文部科学大臣賞を取っているんです。表彰されている学校なんです。私は、この学校の取組の話をして、学ばせてもらいに行かせてもらったんです。「校長先生、この学校の取組、どういうところが一番重要なんですか。」そしたら、『この学校に来たら、こんな子供が育ちますよ。』ということをしつかりと話し合っ作っているんだ。」と言われました。よそから来ても、この学校に来ているこの学校の子供だ。この学校に来たら、地域が違ってともしも地域の方と共に・・・。保護者も来たら地域が違ってこの学校の保護者ですから・・・。地域・学校・保護者で、保護者も入る。「この学校に来たら、こんな子供が育ちますよということをしつかり伝えて、そんな子供を育成するために頑張っているんですよ。」と話されました。ざっくりした話なんですけど、「この学校に来たら、こんな子供が育つよ。」といったところをどう作っていくかということではないかなと思います。

質問者： 今のお話は、中学校に関しては、そういうのが当たりますね。今、外部は半分ですけど、神島の中学校に来たら、そういう教育をしてももらえる。それから、のびのびとやれる。子供が伸びるということをもって、年々増えています。今、半分ですけど、来年はもっと増えると思います。小学校は、まだそこまでいっていない。

○質問者： コミュニティスクールというのはなかなかイメージがわかりませんが、学校では算数や国語とか習うのと、これは社会教育のイメージですが、ウエイトというますか、学校全体の授業の中でどれくらいするようになるんですか。

回答： コミュニティスクールとか、学校運営協議会ですね。これは、勘違いしてはいけない、これは行事をするための組織ではないということです。何かをする、しなければならぬ組織ではなくて、今、地域の中にある学校で、こんなことが学校や子に必要ではないか、という議論をするための会だということです。ですから、行事をしないといけないということはないということは、一番最初に皆さん共通しないといけないことかもしれません。何かをするための会ではなくて、子供たちが今どういう風に育っているのか、こんなことが、地域としてはこんな教育ができるよという風なことを話していく。提案していく。一緒に作ってい

く。そんな会です。ですから、どんだけのウエイトというのは、すべてに関わると言えばすべてですし、学校から、この部分をお願いしますよとなれば、そこで、どんなことができるかという話です。逆に、地域のほうでも、学校にこんなことをしてもらいたいなという話。双方向性のある関係なんです。そういう風に理解してもらえれば良いと思います。

○質問者： 大体よく分かりました。コミュニティスクール、一言で、日本語で言ったら、どういう格好なんですか。それを聞かせていただいたら、雰囲気としてよく分かる。コミュニティスクールとって、日本語で、単語で、一言で。

回答： これは、今までになかった質問ですね。一言で、どう言いましょうかね。

質問者： 今、横文字とか、カタカナが多いんでイメージがわからないんです。

回答： 実はそれ、一番最初に言われたんですよ。それで、地域協働学校という風にも考えたりしたんですが、なんかイメージができなかったんです。堅かったんですよ、漢字で書いても・・・。すごい質問をされたんですけど、まさにそんな感じだったんです。それで、今、一言で言うならば、国のマークが出てきましたよね。上の。これなんですよ。これを見たら、このマークを見たら、「この学校の、あっ、コミュニティスクールのマークだ。」と分かるものをそれぞれが作っていくことが必要なんです。言葉ではなくて、その地域で、これが、地域・学校・家庭で、子供たちと一緒に育てようとするシンボルだということが、できるものを作っていくことが必要だろうなと思います。

○質問者： 一昔前に、「学社連携」という言葉がありましたよね。あのほうが、まだ、皆に分かるように思うけれども・・・。まあ、「コミュニティスクール」、時代の先端を考えているんだろうけれど、僕はそういう中で、「不易有効」という言葉があるね。昔の良いところは残しつつ・・・。ルソーとか、パスタロッチとか僕は好きなんですけど、ああいう方々の考えも、その中へどこかに、「あっ、ここへそれが出ているな。」というような形での進め方をしたいなと・・・。教育委員会の方といろいろ話しているんだけど、そういう良いものは残していきたい。何もかもすべて新しいものという感じに、どうしても見えてしまうんです。

回答： お答えというか・・・。府中明郷学園のキャッチコピーというか、コミュニティスクールは、「地域の中に学校を 学校の中に地域を」という。これなんですよ。これは去年度のものなんですけど、府中明郷学園の「むらさきタイムズ」の表紙にもありますけど、これを関係者皆で作った言葉なんです。うちのコミュニティスクールは、こんな思いが入っている

んですよというのをそこにおいてに出し合いながら、一つのものにしていく課程で、それがそのコミュニティスクールの信義ということになっていくんじゃないかなという風に思います。

○質問者： 最後におすすめ。10ページに「大切にしている4つの視点」ということで、4つある、それがすべて地域に絡んだ「地域を学ぶ」「地域を生かす」「地域に貢献する」「地域と学ぶ」という風にあるんですけど・・・これは、私の学区のことだけかもしれませんが、だんだんと子供たちが学ばないといけないことがすごく増えています。と思います。最近で言えば、プログラミングとか、どんどん増えていると思うんですけど・・・。その中で授業数を如何に確保するかというのが、学校でも、先生の中でもすごく大変な問題になっていると思うんですけど・・・。それで、私が感じているのは、私の子供の頃はもっと地域の人学校に行き行って子供たちと野外活動をしたりとか、子供たちが地域の山に行き行って一緒に地域の人たちと植林をしたりとか、そういう活動をいっぱいできてたと思うんですけど、それがだんだんと、授業数の確保の関係かなんかで、だんだんとそれがなくなっている。最低限のことはまだやられますけど、もっと、昔はできてたと思うんですけど・・・。そのあたりは、どういう風に・・・。運営協議会で協議して、校長先生に、この時間をしっかり確保してくださいということで決まればできるんじゃないかなとは思いますが、そのあたりは、どういう風に考えられているでしょうか。

回答： その辺は、校長先生方は、非常に苦慮されるころだと思えます。それで、学校の教育課程というのは、校長先生が立てられるものであります。そこは、カリキュラム・マネジメントという言葉がよく使われるんですけども、マネジメントありきなんですけれどもね。子供たちのためになることは、学校教育では取り入れたいと学校は思うんです。でも、地域のリクエストをすべて聞いていたのでは、学校は成り立ちません。なので、この部分はこの時期にこうやっていこうと、年間を通した・・・。そこは、地域の方とのカリキュラム・マネジメントというのを校長はしていただかないといけない・・・。たくさんあるんですけども、これは残していこうということも話し合いの中で決めていって、それを従来通りのものか、もっと形を変えたものかというところを一緒に話していくという段階が、必ず必要になるかという風に思います。ほんと、言われているとおり。これからだと思えます。どれを優先順位、これをまず残していこうと決めて、一つ残していければ、次のものが出てくるだろうと・・・。まずは一つ目というのが重要じゃないかなと思えます。